Cover History

ー 表 紙 写 真 由 来 ー

西播磨の疏水・河東統合頭首工

―兵庫県宍粟市―

兵庫県西播磨県民局光都土地改良センター　**合　田　　弘**

1．はじめに

表紙写真，**写真–1** は，山々に桜の花が咲く季節，兵庫県宍粟市山崎町野々上，一級河川揖保川にある「河東統合頭首工」を撮影したものです。

写真–1　国道 29 号田井交差点から県道に入り揖保川に架かる野田橋からの頭首工全景

2．宍粟市山崎町揖保川筋の主な井堰

宍粟市山崎町内の揖保川筋にある井堰（統合前の井堰を含む）のうち，史料として記録された主な井堰は十数カ所あり，これらの記録された年次やその規模などの概要は，**表–1** のとおりであり，「兵庫の土地改良史」に紹介されています。

特に荒々しい揖保川に堰を造り，水を引くということは，大変な農業土木事業であり，この堰も大雨が降ればたちまち流失し，旱天が続けば必死で堰上げして取水した農家の方々の苦労は，年々の災害復旧事業をみても明らかとなっています。

宍粟市山崎町が揖保川より取水する井堰は，上流より清野，杉ケ瀬，与位，田井，野々上，岸田，五十波，三津，須賀沢，荒井，野村，川戸，宇原上，宇原下の 14 井堰でしたが，昭和 38（1963）年および昭和 39（1964）年の災害によって川戸，宇原上，宇原下の 3 井堰が流失し，県営災害復旧事業によって井堰を統合し戸原頭首工として復旧，昭和 45（1970）年の災害

表–1　宍粟市山崎町内の揖保川筋の主な井堰

井堰名	史料記録年次	井堰の規模と構造	灌漑面積	現況
清野井堰	延宝 7（1679）年	延長 63 m，杭堰	14 ha	栗石張，関西電力共同取水 ［コンクリート固定堰］
	元禄 6（1693）年	延長 108 m，杭堰		
杉ケ瀬井堰	−	−	12 ha	［コンクリート固定堰，現 杉ケ瀬木ノ谷井堰］
与位井堰	延宝 7（1679）年	延長 62.7 m, 高さ 1.3 m	18 ha	石張［コンクリート］固定堰
田井井堰	−	−	26 ha	［コンクリート固定堰，現 千条井堰］
野々上井堰	延宝 7（1679）年	−	191 ha	昭和 45（1970）年 8 月台風により決壊流失，昭和 48（1973）年 3 月県営災害復旧事業で河東頭首工として統合
岸田井堰	延宝 7（1679）年，元禄 6（1693）年 宝暦 10（1760）年	延長 180 m，高さ 1.5 m		
須賀沢井堰	延宝 7（1679）年，元禄 4（1691）年	延長 252 m，高さ 1.2 m		
三津五十波共井堰	延宝 7（1679）年，明治 5（1872）年	延長 90 m，高さ 1.8 m 杭堰	30 ha	木工沈床工 3 段，被災歴多数 ［コンクリート固定堰，現 三津井堰］
荒井井堰	寛延 2（1749）年，明治 5（1872）年	延長 324 m	228 ha	昭和 45（1970）年 8 月台風により決壊，昭和 48（1973）年 3 月県営災害復旧事業で改修
野村井堰	−	−	20 ha	［コンクリート固定堰］
川戸井堰	明治 5（1872）年	−	130 ha	昭和 39（1964）年 9 月台風により決壊，昭和 42（1967）年 3 月県営災害復旧事業で戸原頭首工として統合
宇原上井堰	延宝 7（1679）年	延長 468 m，高さ 1.2 m 杭堰		
宇原下井堰	延宝 7（1679）年	−		

・注 1：山崎町史をもとに作成，延宝 7（1679）年とは，「宍粟郡之内山崎領内覚書」のこと
・注 2：灌漑面積と現況の［　］書きは，平成 9（1997）年，兵庫県実施の井堰調査結果をもとに作成

では野々上，岸田，須賀沢，荒井の 4 井堰が流失し，県営災害復旧事業として，野々上，岸田，須賀沢を統合して河東統合頭首工，荒井は単独の荒井頭首工に，いずれもゲート構造による近代的頭首工に復旧されました。他の井堰も年々の災害復旧事業で，コンクリート構造の井堰として復旧され，揖保川の改修と相まって現在は安定した灌漑用水の取水が行われるようになっています。

3．西播磨の疏水・河東統合頭首工

兵庫県の西の端，瀬戸内海に面し，岡山県と鳥取県に隣接する西播磨地域は，県下の他地域と比べて農業用水を河川に依存している比率が高い地域であり，一級河川揖保川水系，二級河川千種川水系を中心に，大小あわせて 1,600 カ所以上の井堰が存在します。（兵庫県はため池数が日本一多いため，県下平均の河川依存度は約 50%，西播磨地域は約 80%となっています。）

疏水は，河川などの水源から取り入れた用水が流れる水路やそれに付属する施設全般を指しており，開水路や暗渠などの水路，各分水施設などがあります。

疏水は農業用水を利用するための施設のほか，さまざまな役割があります。住宅地などの間を流れている水路も多く，景観の一部として，水に親しむ施設ともなっています。また，火事などの備えとしての防火用水や洗い場としても使われることもあります。西播磨地域の生活空間の一部を構成している疏水は，地域の共有財産なのです。

「河東統合頭首工」の施設概要，造成の経緯や管理主体の概要については，「西播磨の疏水（井堰編）」に紹介されています。

(1) 施設概要　河東統合頭首工は，揖保川の上流域に位置し宍粟市山崎町の揖保川左岸に広がる，野々上から須賀沢に至る 191 ha の農地を潤している頭首工です。

当該受益地内には，麦の種子採取圃場が広がるなど，稲作のほかに黒大豆などが生産され，優良農地において農業生産が行われており，河東統合頭首工から大断面の幹線水路を経由して農地を灌漑しています（**写真-2**）。

右岸側が固定堰で左岸側に可動堰（洪水吐ゲート）が 1 門設置されています。洪水吐ゲートは鋼製シェル構造ローラーゲート 1 門のみなので，堰長 37 m，堰高 3.25 m と非常に大規模な施設となっています（**写真-3**）。

(2) 造成の経緯　明治 3（1870）～明治 4（1871）年頃に，山崎町より上流の舟運のために作成された「川路井村々絵図」には，当時の井堰の配置が記入されており，現在の河東統合頭首工の前身である「野々上井」，「岸田井」，「須賀沢井」をみることができます（**図-1**）。

写真-2　優良農地と大断面の幹線水路

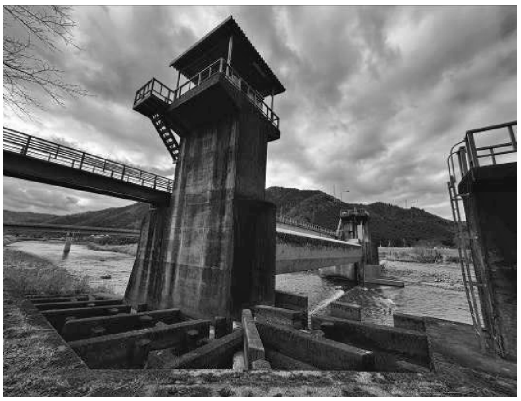
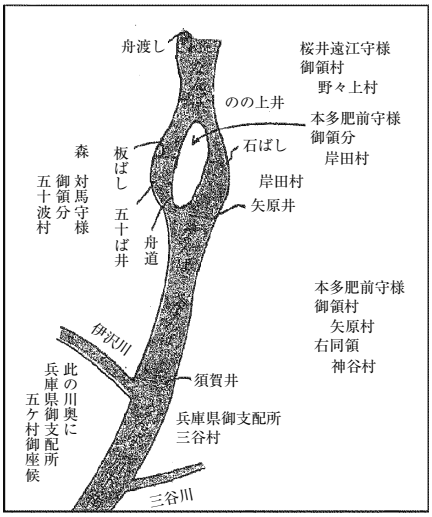


写真-3　揖保川左岸上流から魚道と可動堰

この 3 井堰については，昭和 45（1970）年 8 月の台風 10 号により被災し，決壊・流失してしまいました。その後，昭和 48（1973）年 3 月に県営災害復旧事業により，元の野々上井の位置に 3 井堰を統合する井堰として造成されたのが，現在の河東統合頭首工です。

(3) 管理主体の概要　河東統合頭首工および幹線水路は河東土地改良区によって管理されています。



注：川路井村々絵図から複写

図-1　岸田村付近の絵図

また，その支線水路については，岸田，矢原，神谷，三谷，中，高所，須賀沢の関係7集落の自治会で管理するなど，河東土地改良区と関係自治会での共同管理が行われています。

岸田集落の下流の第2ゲートまでは，小河川ともいえる大きな断面の水路で用水を流しており，周辺の景観と一体となった農村風景を形作っています。第2ゲートより下流は農地内の道路に隣接して末端まで配水されています。

4．揖保川流域の資源発掘（山崎地区）散策

毎年4月から翌年3月にかけて，日本風景街道新因幡ライン協議会が主催，NPO法人奥播磨夢倶楽部が企画・運営して「風景街道フットパス」の各種ウォークが開催されています。

令和7（2025）年5月上旬，風景街道フットパス揖保川の水運・高瀬舟で巡るシリーズのひとつ，揖保川流域の資源発掘「春のいぼがわ千年藤と高瀬舟ウォーク」が開催され，散策マップを片手に今回，河東統合頭首工の受益地を中心に山崎地区を散策しました。

山崎地区には公共交通機関では，JR姫路駅前（北口）から山崎まで神姫バスが走っており，終着点「山崎」から徒歩10分の「宍粟市役所」を発着点として散策はスタートしました。

(1) 高瀬舟船着場跡　江戸時代から大正期にかけ，揖保川には高瀬舟が行き来していました。元和元（1615）年に商人の龍野屋孫兵衛たちが私財を投じて水運が開かれました。出石（いだいし）の両岸に船着場があり，揖保川河口の網干（あぼし）港（姫路市網干区）までの28 kmを運航していました。運行期間は10月上旬から6月上旬の農閑期のみでした（**写真–4**）。

写真–4　宍粟市役所横の揖保川右岸堤防から高瀬舟船着場跡を望む（山頂には聖山（ひじりやま）城跡）

(2) 篳篥神社　宍粟市役所から宍粟橋を渡り東へ，愛宕山のふもと，揖保川にほど近いところに篳篥（ひちりき）神社があります。播磨一宮伊和神社の遥拝所（ようはいじょ）といわれており，雅楽の管楽器のひとつ「篳篥」にまつわる伝説が語り継がれています。境内には，推定樹齢約300年，幹回りが3 m以上もあるイチョウの巨木をはじめ，カヤ，トチ，モミの大木が生えています（**写真–5**）。

写真–5　篳篥神社

(3) 聖山城跡　羽柴秀吉が天正8（1580）年に宇野氏を攻撃した際に本陣とした山城として知られています。城郭としては小規模な遺構ですが，西方に揖保川沿いの街道を見下ろし，長水城と篠ノ丸城を一望できるため，交通の要衝を抑える役割があったとされています。

(4) 十二ン波　揖保川の清流によって川底の岩塊が洗い出されてできた多くの奇岩からなる名勝です。

揖保川中流域の高瀬舟船着場の北方に位置しています。この奇岩を高瀬舟が通過することが困難であったため，十二ン波（じゅうにんなみ）の下流が高瀬舟船着場となりました。

宍粟北部の木材は，上流から筏流しで下ってきました（**写真–6**）。

写真–6　河東大橋から見える奇岩の名勝

(5) 青蓮寺　揖保川から離れ，国道29号を横断し，山崎城下町の東端のところに，徳川家康側室の西郡の局（にしのこおり）（池田輝澄の祖母）の菩提寺（ぼだいじ）である青蓮寺（しょうれんじ）があります。

慶長 12（1607）年に姫路市野里に建立され，元和 4（1618）年に家康の孫である宍粟藩主池田輝澄が現在地に移築しました。延宝 8（1680）年に町屋からの失火で本堂，庫裏を焼失しました。本堂は元禄 6（1693）年に再建されました（**写真–7**）。

写真–7　青蓮寺

(6)　大歳神社千年藤　青蓮寺から北西へ徒歩 10 分，大歳神社の境内には，藤（ノダフジ）の巨木があります。村上天皇の天徳 4（960）年に「上寺の与右衛門が植えし」と伝えられており，通称「千年藤」と呼ばれています。幹回りが 3.8 m あり，枝張り面積は 500 m^2，花房は 1 m 以上にもなります。

県指定の天然記念物で，環境省の「かおり風景 100 選」にも選ばれた大歳神社千年藤，今年も丁度，本誌第 4 号が届く 4 月の最終週から境内に漂う藤の香りを楽しみながら，千年という時の流れに思いを馳せていただければと思います（**写真–8**）。

(7)　鮎友釣り発祥の地　神姫バス「山崎」から宍粟市一宮町や波賀町方面へ乗車約 10 分，国道 29 号沿いの「五十波」停留場下車，すぐ前に，「鮎友釣り発祥の地／縁の岩」石柱碑が設置されています。

五十波の住民「下駄屋甚平」がある夏の日，揖保川の西岸「縁の岩」という大きな岩から清流の中に 2 尾の鮎が激しい縄張り争いを繰り広げているのを見て，鮎の模型を使って釣りをするようになりました。生きた鮎でやってみると何倍も多く釣れるようになりました。

これが鮎の縄張りの習慣を利用した「鮎の友釣り」の始まりとされ，甚平が鮎釣りをしていた宍粟市山崎町五十波の縁の岩付近が「鮎友釣り発祥の地」として，今に伝えられています（**写真–9**）。

5．おわりに

兵庫県では，令和元(2019)年 7 月に「ため池の保全等に関する条例」の改正条例が施行されました。条例ではため池の適正な管理の徹底に加え，ため池等(疏水も含む)の有する多面的機能の発揮の促進が明記されました。

写真–8　大歳神社千年藤「藤まつり」

写真–9　「鮎友釣り発祥の地／縁の岩」石柱碑

河東統合頭首工や幹線水路等を管理する河東土地改良区の代表である衣笠理事長は「先人から引き継いだ水利施設を活かし，次代に継承するため，共同管理している関係自治会と連携し地域ぐるみで継続的に取り組んでまいりたい」と思いを寄せられています。

兵庫県では，ため池等（疏水も含む）の多面的機能の発揮の促進について広く県民の理解を得るとともに，今後ともその意識向上を促すため，啓発活動や情報発信など「ため池保全県民運動」として展開しています。

引用・参考文献

1)　兵庫県農林水産部農地整備課：兵庫の土地改良史，兵庫県（1990）
2)　兵庫県西播磨県民局光都土地改良センター：西播磨の疏水（井堰編）～西播磨の大地を潤す，水の恵み～，兵庫県西播磨県民局（2024）
3)　NPO 法人奥播磨夢倶楽部：日本風景街道新因幡ライン風景街道フットパス「千年藤と高瀬舟ウォーク」コースマップ（2025）